

【エントリー情報】

自治体名：奈良県大和高田市

学校名（自治体でエントリーされる場合は記載不要です）：浮孔小学校

ご記入者：眞井菜央子

【設問】

- ① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。
（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

本校の学校教育目標は「やさしくたくましく学び合う子」です。また、「子どもが明日も来たいと思う学校づくり」を基本テーマに、友だちと一緒に活動する楽しさ、勉強がわかる楽しさ、明るく元気に過ごせる楽しさ、安全で安心していただける楽しさにあふれる学校となるよう、日々、教育活動に取り組んでいます。

12年ぶりに改訂され、令和4年12月に公表された生徒指導提要では、「児童生徒理解を基盤とした教科の指導」や「教科の指導と生徒指導の一体化」について述べられており、その中の「自己存在感の感受を促進する授業づくり」「共感的な人間関係を育成する授業」「自己決定の場を提供する授業づくり」「安全・安心な『居場所づくり』に配慮した授業」というキーワードをもとに、授業においても生徒指導の視点を大切にしたいと考えています。

- ② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）

私は大学院にて心理学の修士課程を修了したばかりで、授業の中でも児童生徒理解を大切にしたいという思いを強く抱きながら現場に戻ってきました。そして、今年度、初めて外国語専科を担当することになりました。「自己存在感の感受を促進する授業づくり」「共感的な人間関係を育成する授業」「自己決定の場を提供する授業づくり」「安全・安心な『居場所づくり』に配慮した授業」の実現は、大変重要であると感じるとともに、コミュニケーションや言語活動を中心とする外国語の授業において、非常に取り組みやすいと思いました。

ただ、担任でないがゆえに、週に1・2時間の授業だけの関わり、また全16クラスという大変な児童数を担当するということにより、きめ細やかな指導、丁寧な評価ということが思うようにできず、児童生徒理解以前の苦勞がありました。また、ALTとの連携も必須で、限られた時間の中で授業についての打ち合わせ・準備を共に進めていくというところにも大変さがありました。

さらに、高学年では、発達段階的に難しいところがあり、活発なコミュニケーションや言語活動を進めたいという思いとはうらはらに、恥ずかしがったり、外国語を使うことに抵抗感をいだいたり、特定の友だちとしか関わろうとしない場面が見られたり、さらにそれぞれの特性に合わせて、個別の支援を必要とする児童ももちろんいますので、言語を用いる教科だからこそその難しさも日々感じていました。

③ (3-1)ICTを活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)

ICTを活用することで、学びの履歴をそれぞれで残すことができるので、多くの児童の評価するには、ICTは必要不可欠です。また、積極的にICTを活用したいという思いをALTの先生ももってくださっていたので、教材づくりにおいてもICTコンテンツを共有することでスムーズに進められました。

ICTを活用することで活動や学習における意欲が高まり、コミュニケーションの促進につながるという点も大きなメリットだと感じています。これは、上記の評価にも関連してきますが、例えばペア活動やグループ活動を行うときに、「話しましょう、聞きましょう」だけではすべての活動を見て回ることができませんが、録音・録画をして記録させることで、自分たちで見直したり振り返ったりすることも、教員が後から見直して、評価に活かしたり、さらに指導の改善につなげたりもできます。また、音声情報がどうしても多くなりがちな外国語の授業ですが、ICTを活用することで、スライド等、視覚的な情報も補助的に示すことができし、単語や表現がわからない、話せないときもスライドの指さしで伝えることができます。ICTを活用することで、様々な形で授業に参加することができるようになることは、ユニバーサルデザインの授業づくりにつながったと思っています。

(3-2)ICT活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000文字以内)

【How are you?カード】5年生では、毎授業の始めに「How are you?カード」をオクリンクで全児童に送りました。カードには、「How are you?」の答えになりうる様々な体調や気分の表情イラストと英語表現が記されています。そのイラストの中から、今日の自分の体調や気分に合うものを選び、○をつけて提出BOXに提出します。そこから「Good morning. How are you?」という授業のあいさつを始めると、反応がより返ってくるようになり、ペアであいさつし合う活動も、スムーズにできるようになりました。なかなか英語で表現することが難しい児童も、カードを指さしたり、○をつけた自分のカードをペアに見せたりすることで、意思を伝えることができました。また、心理学的にも、日々の自分の体調や気分に気づくことはとても大切で、そのことも子どもたちに日々伝えながら、毎回この活動を取り入れました。

How are you?



【ミニテスト】「How are you?カード」とともに、前時の復習や発音・スペルに関連するミニテストをオクリンクで送り、提出させました。前時の表現がどれだけ定着しているのか、ひと目で把握することができ、指導の振り返りにもつながります。また、フォニックスのような発音・スペルに関わる指導は、積み重ねが大事ですが、プリントを毎回用意するのは大変です。四線のみなど、使い回せるシートを作っておき、ALTの先生の発音を聞いて書くという形にすれば、準備や回収が本当に簡単でした。

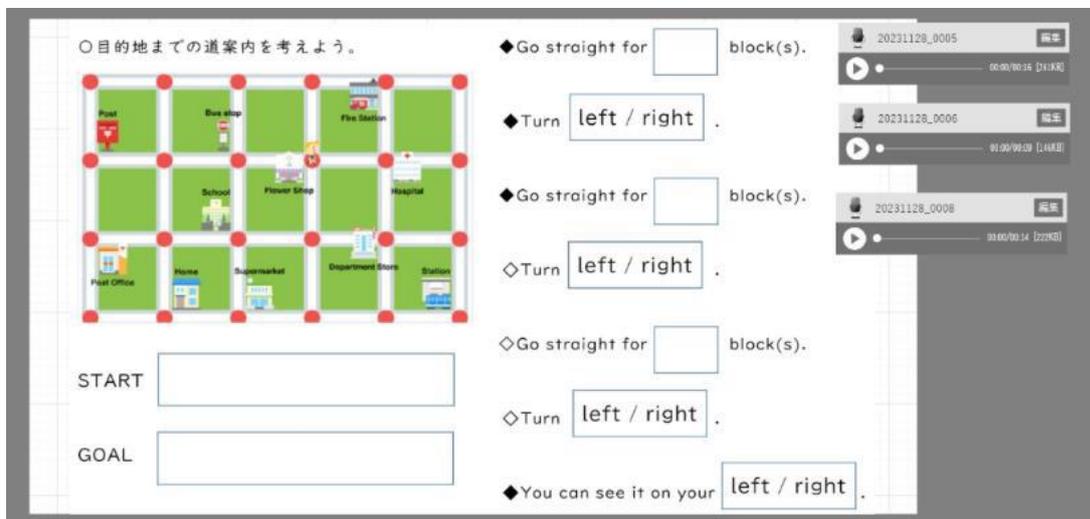
大文字の書き取り

①	②
③	④

【パフォーマンス・インタビューテスト】個人・ペア・グループ等で、発表ややり取りをする場面では、オクリンクのシートに録音または録画させました。オクリンクでスライドを作成して、そのスライドに音声を入れるという活動も行いました。評価にも役立ちました。ALTの先生にインタビューテストをお願いしたときも、1人1スライドに録画して記録を残すことで、評価は一緒にすることができました。さらに、4段階のルーブリックを、4枚のスライドに記入し、オクリンクで送っておくことで、どこまでのレベルのパフォーマンスを目指すか自分で選べるようにもしました。また、個人練習ができるように、使用する表現をALTの先生に録音してもらっておき、テキストと音声を入れたスライドを送っておくことで、わからない表現を自分で繰り返し聞いて練習することもできました。

<p>Today's Goal</p> <p>道案内の表現に慣れよう</p> <p>今日はどのレベルをわかせますか? 道案内の難易度はこの道案内レベルを覚えてね。</p>	<p>初心者☆☆☆★</p> <p>目的地までの道案内を わからないところがあっても 最後まで聞いている</p>	<p>見習い☆☆★★</p> <p>目的地までの道案内を聞いて 進む方向が少しわかる</p>
<p>一人前☆☆★★★</p> <p>道案内を聞いて 目的地までの道順が だいたいわかる</p>	<p>達人★★★★★</p> <p>道案内を聞いて 目的地や道順が すべてわかる</p>	

【道案内】ミライシードの情報活用能力より、スクラッチを使い、道案内のプログラミングに挑戦しました。プログラミングを成功させると、英語表現も完成することになるので、表現の確認にもつながりました。英語が得意な児童と、プログラミングが得意な児童が、共に活躍し、協力できたところもよかったです。



【衣服の着せ替え】3年生の外国語活動でとてもよかった活動は、オクリンクで ICT サポーターの先生とともに作成した着せ替えのライドです。天気と身につける衣服を聞き取り、人物のイラストを完成させます。一生懸命聞き取ろうとみんながんばっていましたが、音声指示を変えることで、繰り返し使えて、とても盛り上がりました。

